



憧れのカラーコートに立ち、全力で戦う姿は立派でした。45チームが参加した全国大会。高鳴る思いを胸に試合に挑みます。



福岡県大会に初出場し、勝利に喜ぶ子どもたち。



巻頭特集

全日本ドッジボール選手権 福岡県大会優勝

「心・技・体」を鍛え、勝利を掴む



レオニダス新宮



小学校の体育館で週4回、厳しい練習に参加する子どもたち。全員で声を掛け合いながらボールに集中します。

ドッジボールの魅力

キャッチした時とアタックが決まった時の楽しさです。

キャプテンとして気を付けていること

周りをよく見て声かけをするようにしています。

辛い時はどう乗り越えた？

チームの6年生に相談しました。

メッセージ

ドッジボールは仲間との絆も深まるスポーツです。ぜひ一度体験に来てください！

大会で優勝した時の気持ち

嬉しさと、今までのことを思い出して、色んな感情が溢れました。



月・水・金・土曜日に新宮小学校や新宮東中体育館などで練習中。詳しくはインスタグラムを！

Instagram @leonidas.shingu



「もっと強くなりたい！」とみんな積極的に練習します。

福岡県大会で初優勝 悲願の全国大会出場へ

そんな周りの人たちに支えられ、2021年夏、『全国ドッジボール選手権・福岡県大会』に初出場。見事優勝を果たします。「決勝戦でブザーが鳴った瞬間、子どもたちはもちろん、監督も保護者も涙を流して喜びました」と歓喜に湧いたそう。初出場にて初優勝は、福岡のドッジボール大会の歴史上初めてとあり、喜びもひとしおです。勝因を尋ねると、「チームにパワーアタッカーがいなかったので、徹底してパス回しを中心にしたこと。そして最後まで楽しめたことだと思っています」と、日頃の練習の成果が出せたようです。8月に予定されていた全国大会は、新型コロナウイルスの

チーム設立わずか3年で、福岡一の最強チームとなった『レオニダス新宮』。その強さの秘密は、子どもたちの「ドッジボールが好き」な気持ちと、サポートする保護者の思いにありました。

公式ドッジボールをもっと普及したい

小学1年生〜6年生まで、男女合わせて54名（2022年2月現在）の部員が所属するドッジボールチーム『レオニダス新宮』。体育館には力強くボールを投げ、集中した顔つきで練習に励む子どもたちの姿があります。「のびのびとドッジボールが楽しめる場所を作ってあげたくて。そしてまだ広く認識されていない公式ドッジボールを普及したいの思いから、チームを設立しました」と話すのは、子どもたちのお世話をする保護者の上級地代子さん。

「好きなスポーツは何？」と聞けば、「ドッジボール！」と多くの子どもたちが答えるほど大人気のドッジボールは、公式なスポーツ競技として、年に2回全国大会が開催されています。

影響で延期となりましたが、各々でできることをやりながら、試合に向けてしっかりと準備したそう。

そして無事11月に茨城県水戸市で全国大会が開催され、「ドッジボール」憧れのカラーコートの前に、みんなで感動しましたと、当手を振り返ります。結果は予選リーグ敗退となりましたが、「この経験は子どもたちにとって、大きな糧となったはずです」と、初の全国大会はとも貴重なものとなりました。

異年齢で一緒に戦う チーム競技の魅力

今回の大会を振り返りながら監督は、「チーム設立からの目標である“全国大会優勝”を達成するためには、子どもたちが受け身にならず、どうすれば強くなれるのか、自発的に考えながら技

週4回のハードな練習 保護者もしっかりサポート

「最初は部員が集まらず、練習試合で全敗することもありました」と、設立当初は苦労したそうですが、次第に増えて、今では多くの部員を抱えます。「目標の『全国大会優勝』に向かって、子どもたちは週4回のハードな練習をこなします。特に夏の体育館は暑くて体力を消耗しますが、本当によく頑張っています。休みの日も「練習がないと嫌だ！」と言うほど、みんなドッジボールに夢中です。

しかし公式戦は12対12名で試合を行うため、全員が大大会に出場できるわけではありません。どのメンバーがどの大会に出場するか、細かくチーム編成をし、各チームの保護者たちがしっかりとサポートをしています。

術と共に向上することです。成長期の大切な時間を一緒に過ごす指導者として、自分も日々勉強です」と気持ちも新たに子どもたちと向き合います。

時には練習中にもどうしても気持ちが抑えきれず、チーム内で喧嘩になることもあります。高学年がコート内での動きなどを低学年の子に教えると、それを慕う姿なども見られ、切磋琢磨しながらみんなで一緒に成長しています。

「自分の感情や要求をコントロールするなど、色々な経験を重ねながら、まずはドッジボールを楽しみ、競技の魅力も伝えられるチームでありたいですね」と、成長する場としてこの環境を守っていきたくないと願う保護者たち。全国大会優勝を狙う彼らに期待が膨らみます。

